HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 3, 97-99
Issue Date	1977-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25493
Type	other
File Information	3_P97-99.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

研　究　室　報

授　業　題　目（昭和５１年度）

文　学　部

独語学概論		川島淳夫
独文学史概説		青柳謙二
独文学演習	現代ドイツ文学講読	青柳謙二
独文学Ⅱ	前期J.Roth:Radetzkymarsch 後期G.Grass:Katz und Maus	U. Walberer
独文学Ⅰ	１９世紀Realismusの研究 C.F.Mayer : Der Heilige	新妻篤
独文学Ⅰ	Grundbegriffe der Linguistik	H. Kempf
独語学演習	Faust第一部	塩谷饒

大　学　院

（修士課程）

独語学特殊講義	Vom Mhd. bis zum Frühnhd.	塩谷饒
独語学演習	現代ドイツ文法理論	川島淳夫
独語学特殊講義	Faust伝説 Novelle	H. Kempf
独文学演習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青柳謙二
独文学演習	前期Hörspiel(W. Borchert) 後期Das dreissigste Jahr (Ingeborg Bachmann)	U. Walberer

（博士後期課程）

独語学特殊演習	塩谷饒
独文学特殊演習	青柳謙二

50年度　卒業論文題目

学　　部

川　東　雅　樹……「シュロッフェンシュタイン家」より
村　木　　寛……ヘルダーリン「ヒュペーリオン」
菊　地　邦　章……ムシルの短篇「グリージャ」について―ある時代の生と現実
梅　津　　真……フランツ・カフカの作品「判決」について
菅　原　　年……ワイマル共和国時代の作家と文芸

大学院修士課程

神　久　聡……Modalität―Modalverbenについて

× × × × ×

「独語独文学科研究年報」　創刊号目次

FabelとMärchen　―ルターの場合―	塩谷　饒
発話が不成功におわった場合の考察	植木迪子
デュレンマット氏の楽しや世界の砂遊び	高橋吉文
文芸学と方法論　―その流れとH・R・Jaussの座標	三浦国泰

「独語独文学科研究年報」　第2号目次

カフカの作品における「現実」の問題　―カフカ解釈をめぐる諸説―	青柳謙二
否定と数量詞に関する一考察	佐藤俊一
現代小説と虚構性	瀬川修二
クライストの「ミヒァエル・コールハース」について	加藤寛蔵

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
   1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
   2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため年額5,000円（教官は10,000円）の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と3名の幹事をおく、幹事は会計1名、編集委員2名とする。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独文研究室におく。